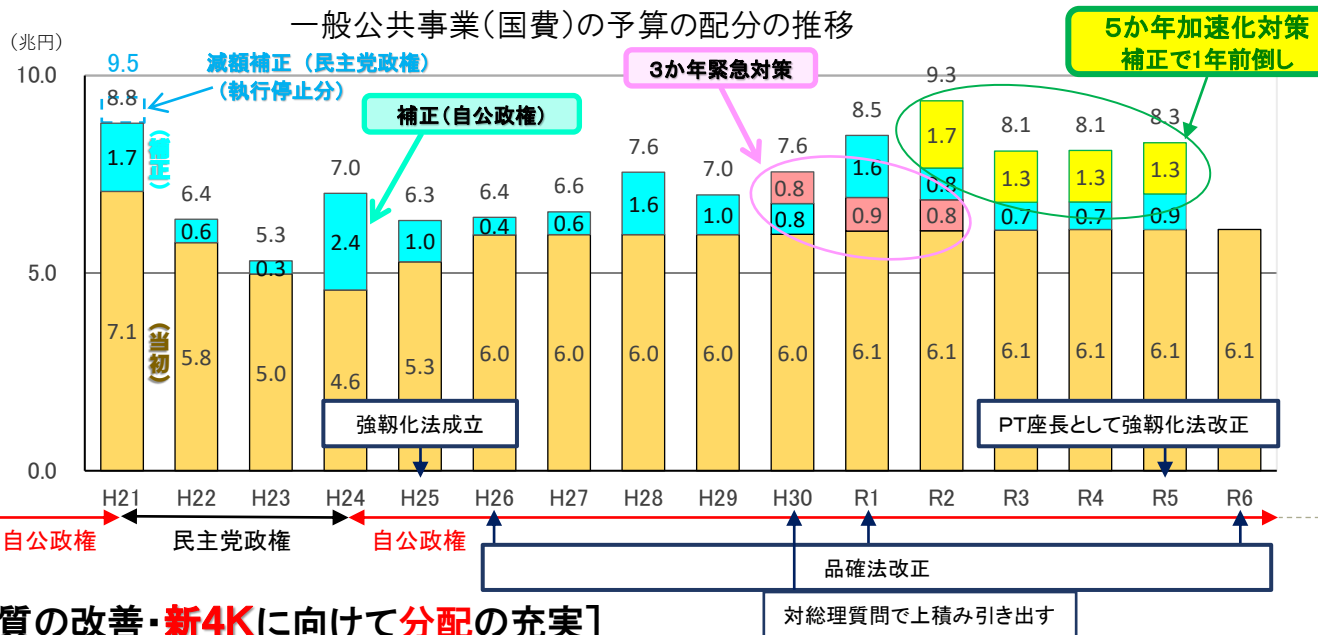


2024.9 発行
発行・佐藤のぶあきを
後援する会 討議資料

[事業量の確保・成長の推進]

全国版工事業

1. 国土強靱化がようやく定着、令和3年度から7年度まで5か年加速化対策



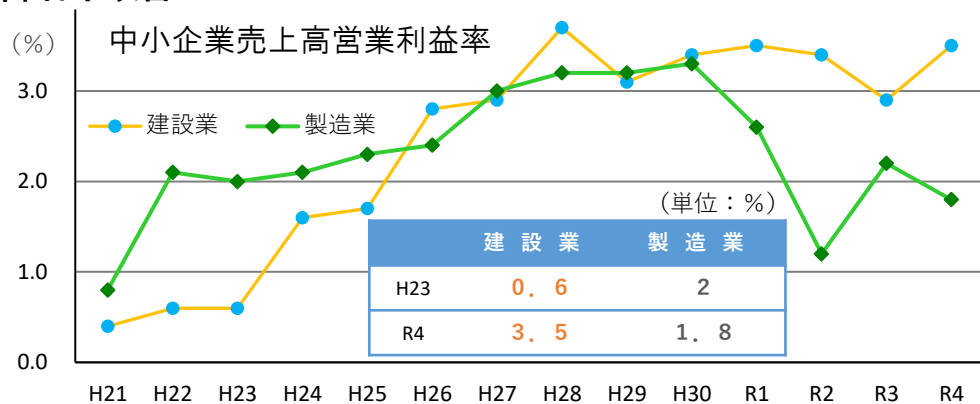
[質の改善・新4Kに向けて分配の充実]

2. 公共工事の低入札調査基準を平成19年以降8回上げた

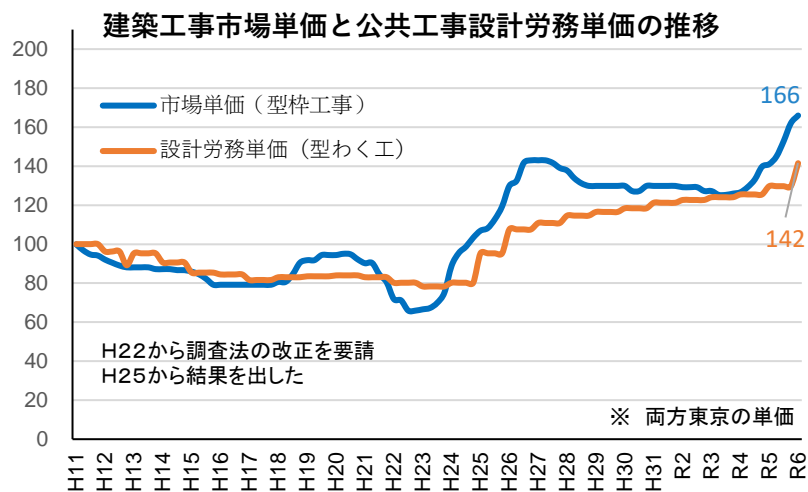
3. 積算価格の推移 平成24一億円の場合

4. 建設産業は赤字続きだったが平成24年度(自公政権で補正)以降若干改善

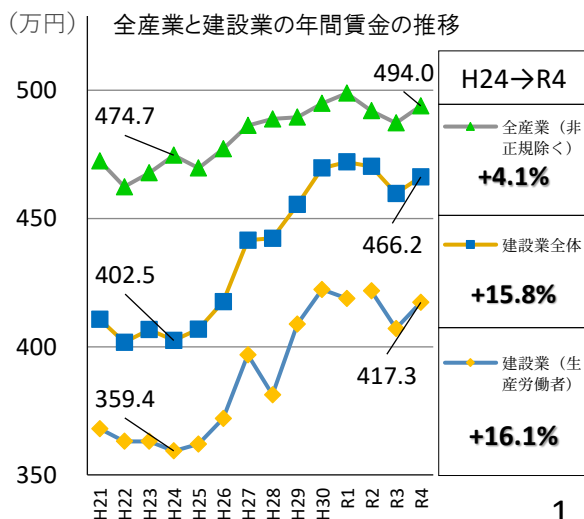
| 改良工事概算 | | |
|--------|--------|---------|
| 年度 | 価格(億円) | 低入基準(%) |
| H9 | 1.06 | 79.3 |
| H24 | 1.00 | 85.3 |
| R5 | 1.35 | 91.1 |



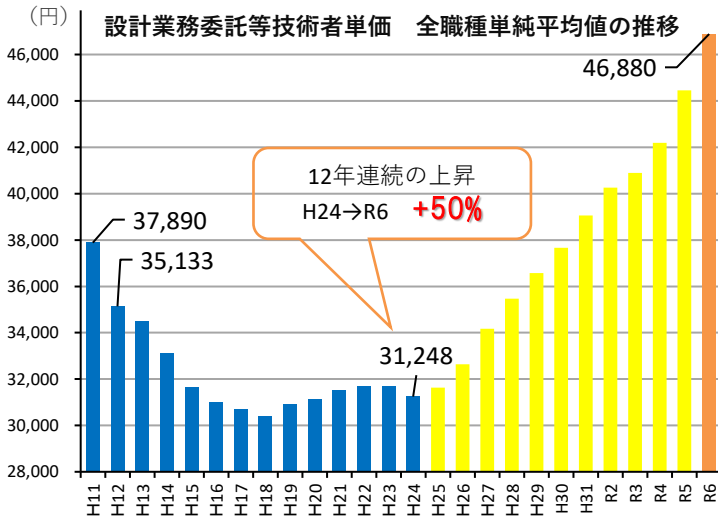
5. 設計労務単価を上げた



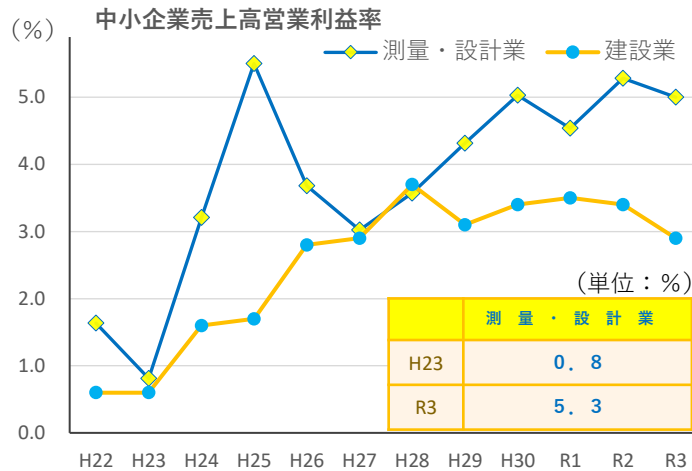
6. 従業者賃金も上昇



7. 技術者単価を上げた



8. 測量設計業も赤字が多かったが平成24年度(自公政権で補正)以降若干改善



令和四年度決算 締めくくり総括質疑 (抄)

令和6年6月10日参議院決算委員会での佐藤信秋の岸田総理に対する質問3問のうち2問概要ご報告します。

第1問 GDPと国税の増えた要因と国土強靱化

○内閣総理大臣の回答

国土強靱化に対する投資、これが経済成長の一翼を担っているという点については御指摘のとおり。また、大規模自然災害における社会機能の維持、あるいは迅速な経済活動の復旧に資する、我が国の経済成長の一翼を担っているという意義もあると認識。

引き続き、災害に屈しない国土づくり、強力に進めるとともに、投資の拡大を更なる経済成長につなげていきたい。

第3問 コストカット経済からの脱却(佐藤の質問、主張)

例えば公共工事では、平均の落札率は大体92.3%ぐらいで、人件費や会社経費を必ず昨年の実績より七、八%カットしなきゃいけないと、こういう問題、コストカット型経済そのものの成り行き。

世界中で、この積算価格を予定価格として、それ以下の価格でなければ落札できないようにし続けているのは、先進国では残念ながら日本だけ、これを直して世界の標準に近づけなくては、コストカット型経済というのがなかなか止まらない。